

シマエナガ

雪の
ようせい



シマエナガは日本の北海道にだけすむ、小さな鳥です。体の大きさはみかんくらいで、まるでわたあめのようなふわふわのすがたから、「雪のようせい」とよばれています。

夏のシマエナガには、目の上に黒いもようがあります。ところが、冬になると体が白くふわふわになり、黒いもようもきえてしまいます。まっ白になることで、雪の中できに見つかりにくくするためだといわれています。

体のおもさは、一円玉九まいぶんほどしかありません。体が小さくて、すぐにおなかがつくので、えさをもとめて一日じゅうとびまわります。えさは、木のかわにかくれた虫や木のみで、えだにさかさまにぶらさがって、さがすこともあります。

さむい冬の夜は、なかまと木のえだに一れつにならんで、ぎゅっとくっついてねむります。春になると、コケとクモの糸をつかつて作ったすの中で、たまごをあたためて、ひなをそだてます。

せんたく(1)

シマエナガはどこにすんでいるのですか？
えらんで○をつけましょう。

① おきなわ

② 東京

③ 北海道

せんたく(2)

シマエナガはなんとよばれているのですか？

えらんで○をつけましょう。

① 森のようせい

② 空のようせい

③ 雪のようせい

きじゆつ(1)

シマエナガの体はどのくらいのおおきさでしょう？

きじゆつ(2)

一年のうち、いつ体が白くふわふわになるのでしょうか？

かん字

かん字に直して書きましょう。

(1) おとこ

(2) はね

(3) がっこう

こたえ

シマエナガ

せんたく

(1) ③

(2) ③

きじゅつ

(1) みかんくらい

(2) 冬^{ふゆ}

かん字

(1) 男^{おとこ}

(2) 羽^{はね}

(3) 学校^{がっこう}